

「幸福」な社会目指し意見

弘大、県など全国サミット

弘前大学と県、弘前市は7日、同市のアートホテル弘前シティでシンポジウム「ウェルビーイング・イノベーションサミット」を開いた。弘大などが研究している、健康づくりを通じたウェルビーイング(心身・社会的に幸福)な地域社会実現について、全国の研究

機関や企業、自治体の関係者らが意見を交わした。

約300人が来場したほかオンラインで約2400人が視聴。約45人が講演や



若者の健康意識向上の方法などを話し合ったパネルディスカッション

取り組み発表などを行った。弘大・健康未来イノベーション研究機構の村下公一機構長は基調講演で「ウェルビーイングは、人生を最初から最後まで、よりハッピーにすること。そのためには健康データの活用が重要」などと述べた。

パネルディスカッションでは、若い頃から健康づくりに取り組んでもらうにはどうすれば良いか議論。「健診で測る側をやってもらえば意識が変わるのでは」若い頃は健康の悩みが少ない。大人や高齢者の健康状態を知れば、自分の将来が見え、健康を考える機会になる」など、次々にアイデアが出された。

サミットでは九つの企業が弘大との共同研究成果を発表。うち花王(本社東京)はメタボリック症候群とロコモティブ症候群の関連性、バリューHR(同)は3年後の健康予測モデル開発について説明した。

(赤田和俊)